

## 「Greener×Greener「私たちの元気な森づくり」

- ☆ 日 時：平成22年11月20日（土） 9：30～15：00
- ☆ 場 所：ふれあいの森（周南市須々万本郷）
- ☆ 参加者数： 20人（こども13人・大人7人）
- ☆ 主 催 者：ガールスカウト日本連盟 山口県支部

### 1 スケジュール

9：30～	集合・開会行事
10：00～12：00	講義「森の話・樹木を見分ける」 樹名板作成・設置・樹木の観察
12：00～13：00	昼食
13：00～14：40	森の手入れ・道具の使い方
15：00	解散

### 2 活動内容

周南市須々万本郷にあるふれあいの森で樹木の観察、樹名板を設置し、雑木の手入れを実施する。

#### 【活動内容】



開会行事。主催者あいさつに続き、山口県自然保護課からこども自然共生活動推進プログラムの目的等を含めたあいさつがありました。その後、本日の活動内容、講師の紹介がありました。

#### （講義）

ふれあいの森(約6万坪)には、広葉樹、針葉樹、樹高の高いものから低いものまで150種位ある。

樹木を見分ける方法は、まず全体を観察し、広葉樹、針葉樹、高木、低木等に分ける。

次に、細部を調べる。葉の形や付き方、花の色や形と付き方、実果の形や色と形質、樹皮、樹形等をしっかりと観察する。葉で見分ける場合、葉の全体の形、葉の先、付け根、葉柄の長さ、葉脈、毛の有無そして葉の付き方を観察する。

木に親しむ方法は、①名前の由来を知る。例えば、カエデはカエルの手に似ているからつい

た名前であること。 ②利用から親しむ。食べられるもの…タラの芽、クリの実、柿など。他に、薬になる、子供の遊び、神事などで利用するもの。 ③地域生活で親しむ。県木（アカマツ）学校、庭木等の身近なもの。



講師の山本さん



### (樹名板作成)

森の中にある木の中から、21種類を選んでひとり1枚の樹名板を作成しました。



### (樹木の観察・樹名板の設置)

樹名板を持って森に入り、樹木の特徴の説明を受けながら樹名板をかけていきました。



この木はソヨゴ。ソヨゴは、風が吹くとソヨソヨと音がするので、ソヨゴと名がつけました。



サルが引っかけってしまうという意味で「サルトリイバラ」と名がついたようです。明るいアカマツ林などに生育しています。柏餅の葉として使われています。





コウヤボウキは、高野山で使われるほうきの原料からきた名前。



幹を少し爪でひっかいて匂いをかいでみます。良い匂い〜これはクロモジ。和菓子に添えてある爪楊枝の太いようなものはこの木で作られています。

左の写真はイヌザンショウ。パッと見るとサンショウとそっくり。

	イヌザンショウ	サンショウ
トゲ	互生	対生
香り	なし	あり
見た目	そっくり	

#### (森の手入れ・道具の使い方)

天然林は、自然の力で育つ森（種から育つ、切り株から育つ）。手入れの方法は、現状を見て、整備を実施する。そして目指す森林へ。

人工林は、苗木を作り、植付け、下刈り、枝打ち、間伐そして収穫をする。

道具は、ノコギリ、剪定鋏、ヘルメット、軍手等。細い雑木は剪定鋏で十分切ることができる。

山に入る時の注意点は、ハチ、マムシ、ウルシ等にご注意すること。また、体調管理を十分にすること。



今回は、剪定鋏を使い、イヌツゲが繁茂している場所の整備をしました。

整備後、森の中を散策し、閉会式で全ての行事が終了しました。

講師は、森の中で木の名前の由来を話したり、木や葉の匂いを嗅がせてみたり、葉の付き方を教えたりと興味をもちやすい様に工夫されていました。

晩秋の一日、子どもたちが活動しやすい無理のないプログラムで、紅葉を楽しみ、森の空気をいっぱい吸い気持ち良く活動が終了しました。